

多気町教育委員会 (勢和中学校の実践)

<所在地>

〒519-2203 多気郡多気町片野 2254

TEL 0598-49-2029

I 事業のねらい

勢和中学校は、コミュニティ・スクール（以下CSと表記）の本格実施から、本年度で7年目となる。本校は、学校、家庭、地域が知恵を出し合い、協議しながら子どもたちの豊かな成長を支えるよう、「地域とともにある学校づくり」を重点目標として教育活動を展開している。昨年度に引き続き、CSの取組を持続可能な取組にしていくために、「総合的な学習の時間」を中心に、CSの取組内容を教育カリキュラムに包含させ、「ふるさと学習」を系統的に実施することで、本校教育活動の充実を図ることを本事業のねらいとする。

<勢和中学校 CS 基本理念>

美しい自然を守り、地域に誇りをもち、さらに勢和を発展させようと行動する子どもの育成

II 具体的な取組例

学校運営協議会の設置やコーディネーター等の研修

(1) 令和3年度CS基本計画の策定

CS基本理念をもとに、本年度のCS基本計画を策定した。

基本計画では、基本理念に則り学校組織運営を行っていくために、学校運営協議会の充実を図るよう、コーディネーター（以下CNと表記）をその事務局として位置付けた。さらに、学校支援地域本部に地域行事部、学習支援部、環境整備部の3部会を組織し、「地域とともにある学校づくり」を推進することとした。

(2) 学校運営協議会の設置

ア 委員構成

学校運営協議会委員は、教育委員会が「学校運営協議会の設置管理に関する規則（平成27年4月1日施行）」に基づき任命した。

委員構成は、下表のとおりである。

区分	役職等	人数
地域	CN、各種団体代表	7人
家庭	PTA代表	1人
学校	校長、教頭、CS担当	3人
教育委員会	事業担当者	1人
計		12人

イ 年間活動計画

回	日時	協議内容
第1回	4月27日 19:00～ 20:30	CS基本計画及び学校教育経営計画の承認 意見交換テーマ「年間計画の報告を受けて」
第2回	9月14日 19:00～ 20:00	経過報告及び今後の課題について 意見交換テーマ「勢和中CSの課題と改善策」
教育委員会 への中間報 告会	10月1日 14:00～ 115:00	経過報告及び学校施設 設備の改善について
第3回	12月3日 19:00～ 20:30	経過報告及び学校関係 者評価について 意見交換テーマ「来年度に向けた改善提案について」
第4回 (予定)	3月11日 19:00～ 20:30	学校の自己評価をもと にした学校関係者評価

ウ 学校関係者評価

学校は、学校教育経営計画に基づき教育活動を展開し、自己評価として目指す学校像の実現に向けたPDCAサイクルによる達成度の評価、学校組織の強みと弱みを明らかにするアセスメントを行う。学校運営協議会は、年間を通じて学校を見聞し、これらの資料をもとに、学校関係者評価を行い、学校に対して

改善提案を行う。このことにより、学校評価に、より客観性をもたせ、継続的な改善の中で、学校教育活動を充実したものにす。

（3）学校支援地域本部の設置

ア CNの役割

CNは、学校運営協議会事務局として位置付けるとともに、地域と連携した取組について学校と地域のパイプ役として各種事前調整を図ること等を主な役割とした。

イ CNの勤務体制

CNは、定期的に毎週水、金の午後、学校で事務にあたる予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、月1回の企画会議と必要に応じて、学校へ来ていただくこととした。

ウ 学校運営協議会との連動

持続可能な取組へとつなげるため、学校支援地域本部の3部会に全教職員を配置したとともに、学校運営協議会委員も所属し、学校運営協議会と連動させた。

（4）CS企画会議の実施

毎月1回、CN、校長、教頭、教育委員会担当者、CS担当によるCS企画会議を開催し、学校運営協議会が有効的に機能するよう調整をしたり、CSの取組に関わる進捗状況を共有したりした。また、本会議には必要に応じて、各部会の部長も出席し協議を行うこととした。

第4回に関しては、緊急事態宣言下ということもあり開催を中止した。

活動計画は、下表のとおりである。

回	日時	協議内容
第1回	4月27日	協議会の内容検討
第2回	5月14日	進捗状況の報告
第3回	6月24日	進捗状況の報告
第4回	8月5日	協議会の準備
第5回	8月27日	開催中止
第6回	9月24日	課題に向けた検討
第7回	10月25日	進捗状況の報告
第8回	11月29日	協議会の準備

第9回	12月17日	進捗状況の報告
第10回	1月28日	改善提案の検討
第11回	2月25日	学校関係者評価
第12回	3月25日	来年度に向けて

2 「学校支援地域本部」の整備について

3部会のねらいは、以下のとおりである。

（1）地域行事部

勢和地域の行事に生徒が、主体性を持って積極的に参加することで、課題解決能力と郷土愛を育むことをねらいとし、生徒の自主的なボランティア活動を推進する。

（2）学習支援部

生徒の学力向上に向け、地域住民に対して地域サポーターを要請・確保しつつ、専門的知見、授業サポートを受けることで生徒への学習支援を充実する。

（3）環境整備部

校内施設設備の安全性を確保し、生徒が心豊かに安心して学校生活を送ることができるよう施設設備面から教育環境を整備する。

3 「地域学校協働活動」の実施・運営について

（学校地域支援本部）

（1）CNの活動

ア 日常実践

CNは、学校運営協議会事務局として各委員への連絡を適宜行い、日程をはじめとする事前調整を図った。また、各地域行事関係者、各事業所担当者等との事前調整を図り、地域と連携した取組の円滑な実施につなげた。さらに、活動実績から学習支援ボランティア一覧の作成、環境整備作業等にあたった。

イ 最新情報の収集

a 先進校視察

CSの推進を持続可能なものとし、継続的な改善につなげるために、先進校視察を実施する。（本年度はなし）

（2）学校支援地域本部3部会

ア 地域行事部

地域行事におけるボランティア活動にあたっては、生徒の自主的参加により実施することとし、事前学習として各地域行事の担当者を講師に招き、活動目的と活動内容を指導したうえで活動させ、事後アンケートをとって活動の振り返りを行っている。しかし、今年度も、「あじさいまつり」や「スポーツフェスタせいわ」が中止となり、4月当初に予定していた地域行事によるボランティア活動を行うことができなかった。子どもたちのボランティアへの参加機会を確保するため、2月下旬に「あじさいボランティア」、3月初旬に「ひな人形展示ボランティア」など地域の方と協力し、あじさいの植栽や、ひな人形を飾るボランティアを計画した。

イ 学習支援部

学力向上に向け、各教科担当からの要請をもとに年間計画を作成し、地域サポーターを要請したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の要請のほとんどが中止となった。感染者数の少ない時期に限り活動を進めることができた。

【地域サポーター要請計画】

教科	内容（学年）	人数
国語	短歌（2年）俳句（3年）	1人
	ブックトーク（全学年）	3人
社会	町政授業（3年）	1人
英語	台湾国際交流（全学年）	3人
理科	水生生物観察（3年）	1人
音楽	和楽器演奏（1年）	1人
保体	ダンス（全学年）	1人
美術	石彫指導（3年）	1人
家庭	保育実習（3年）	5人
	調理実習（1年）	4人
総合	職業体験（2年）	18人
	地域学習（1, 2年）	13人
	平和学習（1, 2年）	1人

<ふるさと学習>

「総合的な学習の時間」を中心にふるさと学習を展開した。地域の魅力を発信することを目標に地域の方や企業と連携をしながら、各学年で進めた。1年生は、「地域を識る」をテーマに地域の文化や芸能について聞き取り学習を行った。また、三井グループの創業者である三井高利の母である三井殊法についても総合研修と講演会を通じて学ぶことができた。

2年生は、「あじさいカフェ」開催を目指し、地域の特産物を活かした商品開発やイメージソングの作曲など幅広い分野で地域の企業と連携を進めることができた。3月には、県内の施設にて成果の発表を行う予定をしている。



3年生は、修学旅行の行き先が県内となり、東京での発表が叶わなかったため、2年間のSDGs学習を生かして地域に向けたSDGsの看板づくりを行った。今後は、地域へ設置する予定をしている。

ウ 環境整備部

年間活動計画を作成し、活動は、生徒が行う事項、地域が行う事項、そして、生徒と地域が共同して行う事項に分けて計画を立てた。学校のプランターや花壇の整備、学校の危険箇所の補修、廃棄物処理などを行った。

今年度は、PTA主催の奉仕活動に協議会委員も参加し、学校・家庭・地域が一体となり取り組む予定をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

<プランターの花植>

地域で花いっぱい活動をしている「ポピーの会」と環境美化委員会の生徒が協力し、花植えとチューリップの球根植えを行った。また、卒業式と入学式用の菜の花の種植えも、CNと環境美化委員で行った。

4 コミュニティ・スクールの導入推進に向けた

活動について

令和4年度から開始予定である、勢和中学校区コミュニティ・スクールに向けて、小学校と中学校の活動を交流する機会を持った。また、小中連携事務局会を開き、9年間を見通した子どもたちに身につけさせたいことを考え、意見交換を行った。

第4回運営協議会では、小学校の校長・教頭の参加も予定している。

Ⅲ 取組の検証

1 学校教育活動への支援について

（1）成果

CSが本格実施されてから7年が経過した。地域サポーターとして学校教育活動に協力して下さる地域の方々も増え、コミュニティ・スクールとしての活動が地域に定着してきている。

しかし、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域ボランティアや地域サポーターの要請中止となり、本来の活動計画通りには進まなかった。「総合的な学習の時間」を中心にした「ふるさと学習」では、第3学年での地域発表を目標に各学年が地域の方や企業と協力し取組を進めることができた。また、今年度は、勢和地域だけにとどまらず、多気町や松阪市とのつながりを意識した学習も進めることができた。

（2）課題

ア これまで培ってきた多くの地域サポーターとのつながりが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2年間要請できていない教科もある。今後は、地域サポーターの要請方法など考える時期となってきている。

イ 現在のコミュニティ・スクール立ち上げ当初から協議会委員として参加していただいているメンバーも多く、今後もコミュニティ・スクールを持続していくためには、新たな人材確保や引継ぎが課題だと感じている。

2 学校・地域の連携について

（1）成果

昨年度に引き続き、今年度も地域行事に参加する機会は、殆どもてなかった。そんな中感染者数の少ない時期に地域サポーターを要請するなど昨年度よりも前に進むことができた。

（2）課題

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度もCSの活動の定着が図れていない。職員の異動もあり、例年の活動を知っている職員の数も減ってきており、職員と地域の方とのつながりが弱くなってきている。今後は、職員の意識改革をする必要があり、現在の状況下の中で新たなコミュニティ・スクールの形を考えていく必要がある。

Ⅳ 次年度の方針

次年度は、勢和中学校区コミュニティ・スクール開始を予定しており、学校支援地域本部事に変え地域学校協働本部を設置し、次の視点から改善を図り、さらにCSとしての教育活動の充実を図る。

- 教職員の異動によって継続できなくならないように引継ぎや組織的な連携の強化を行っていく。
- 9年間を見通した教育目標を設定し、学校を核とした地域づくりを更に進め、全職員が共通意識のもとCSとしての教育活動の充実を図っていく。

